

# メールマガジン

第二号

2006/5/17

## 1 目次

- トピックス
- 梶山総長、柳原副総長等 第四回日中学長会議に出席
- 九州大学大学院学位記授与式北京大学学長祝辞
- 九州大学中国同窓会徐宗学副会長 北京事務所開所式で挨拶

## 2 メールマガジンへの寄稿

九州大学北京事務所では、中日研究・教育や九州大学OBの活動に関する情報、集会やイベントの案内など、メールマガジンの原稿を募集し、九州大学教職員・OB及び関係各位に配信します。ご寄稿くださる場合は、電子メールまたはファクスにて、九州大学北京事務所宛にお送りください。電子ファイルを添付していただくと、編集が効率的にできます。

## 3 事務所だより

### 中日文化交流プラザ ボランティア募集中

中日文化交流の増進への奉仕活動を通じて、社会へ貢献する充実感を私達と共に感じていただける。そんな仲間を募集しています。

中日文化交流イベントの企画、運営にお手伝いしていただける方、異文化体験が好きな方、自国の文化や言語を多くの人に伝えたいという方、ご連絡をお待ちしています。

ボランティアに関して、ご自分のご都合がよろしい時に、お好きな活動をやっていただく事で構いませんので1回しか参加できないという方も是非ともお願いします。

### 九州大学北京事務所 九州大学中国同窓会事務局

住所：〒100086 北京市海淀区中関村南大街甲6号铸诚大厦B座2008室

電話：+86-10-5158-1387 ファックス:86-10-5158-1367

メール：peiking\_office@yahoo.com.jp (日语) kyudai\_office@yahoo.com.cn (中文)

## トピックス

1

### 九州大学中国同窓会史会長 九州大学を訪問

4月3日(月)、九州大学中国同窓会会長である史寧中 東北師範大学学長が九州大学を訪れました。梶山総長との懇談では、九州大学北京事務所への援助協力や、九州-東北師範両大学の交流発展が話題になりました。

翌4日(火)は、自ら希望して伊都キャンパスを見学した後、柴田副学長(同窓会担当)や塩田総務課長と、中国における同窓会活動について語り合いました。

2

### NEDOの公募制度の説明会 開催

新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)は、経済産業省傘下の独立行政法人である。新・省エネルギーの研究開発及び普及と、産業技術に関する研究開発の支援(研究資金の提供、研究開発のマネジメント)を主な任務としている。

中国の大学・研究機関等との共同研究に当たり、NEDOが実施する研究開発の支援制度を利用することが可能である。

NEDOの制度について理解を深めるため、4月26日、NEDOの公募説明会がNEDO北京事務所にて行った。九州大学北京事務所宋敏所長が説明会に参加した。

NEDOへの応募に関する情報は下記のホームページより入手できる。  
<http://www.nedo.go.jp/informations/koubo/>

3

### 北海道大学北京オフィス開設式を挙行

北海道大学はこの度、中日交流の拠点として北京オフィスを北京市中関村に開設し、5月8日、大学関係者や企業関係者を交えた開所式を行った。その後、北海道大学中国同窓会は天倫王朝飯店で第一回総会を開き、関係者や卒業生およそ300人を招待し、盛大な祝賀パーティーを行った。

九州大学国際交流部穴沢一夫部長、趙曉明、九州大学北京事務所宋敏所長、杜孝平副所長及び李同帰副所長がこの開所式に出席した。

この程、北京市に事務所を設置する日本の大学は既に20校程に急増してきた。

## トピックス

4

### 北京科技大学の日本文化祭にて留学説明会

5月14日から21日にかけて、北京科技大学外国語学院が日本文化の紹介を目的とする日本文化週をキャンパスで開催した。そのイベントの一環として、5月14日（日）、九州大学北京事務所、北海道大学北京オフィス、東京工業大学北京事務所、広島大学北京事務所、桜美林大学北京事務所等が招へいされ、各大学の留学制度を学生に説明した。九州大学のコーナーにも学生が絶えず資料を取り寄せて、九大留学に関していろいろと質問した。九大留学に大きな関心が寄せられている。また、九州大学北京事務所の活動に深く興味を持ち、夏休み中、事務所の仕事を体験したいという学生もいた。

多くの学生から寄せてきた質問の中に、中国学生、特に日本語の分からない学生に向けての英語や中国語版の大学情報の充実、円滑な留学連絡調整ルートや体制の整備、優秀な学生を選抜できる基準作りなどについて、至急の課題として検討すべきのではないかと痛感した。

5

### いよいよ中日文化交流プラザスタート

さまざまな文化交流活動によって中日両国の市民における相互理解を深めるために、本事務所には中日文化交流プラザを設け、いよいよスタートする。

この中日文化交流プラザは、日本の文化や生活情報を紹介する本や映像などを交換するほか、市民や学生との交流イベント、講座などを開催することにより、中日市民間における人と人とのふれあい、技術や産業とのふれあい、歴史や伝統、文化とのふれあい、自然や環境とのふれあいを進める場として機能する。

6

### 九州大学大学院楠田哲也特任教授NSFCとJST共催シンポに出席

5月16日から17日にかけて、「流域圏の汚染・劣化に関する影響評価と対策技術」と題した共同シンポジウムが日本科学技術振興機構（JST）と中国国家自然科学基金委員会（NSFC）の共催で北京市外国専門家大厦にて行った。九州大学大学院楠田哲也特任教授がこのシンポに出席し、「水資源の水文・水質統合モデルの構築及びその渭河流域への応用」というテーマで発表した。



## ■梶山総長、柳原副総長 第四回日中学長会議に出席■

5月9日から11日まで、3日の第四回日中学長会議は中国西安市にある西安交通大学にて開催された。この学長会議は中日両国における教育交流と協力の強化や大学間の相互理解の増進を目的とし、2000年10月22日の東京での第一回開催以来、四回目になった。今回のテーマはグローバル化とアジア地域協力を背景に、中日大学間における全面的な協力の在り方と推進体制であり、具体的には優秀な人材育成や交換留学における日中大学間の協力強化や、共同研究と学術交流における中日大学間の協力強化などの具体策について討論が行われた。

会議には中国教育部副部長章新勝氏、日本文部科学省審議官近藤信司氏をはじめ、多くの中日政府管理部門、関連機関の代表者、中日関連大学の学長等が計150名参加。九州大学梶山千里総長、柳原副総長等もこの会議に出席した。

会議では、中日両国の大学教育に直面している問題や、今後の発展方向などについて、率直な意見交換を行い、さらに学生交流、人材育成、共同研究などのさまざまな分野における協力体制のあり方や推進体制の構築について討論した。

近年、中日両国の大学は人材育成や共同研究などの面において、幅広く交流や協力を活発に行い、既に実質的な成果を収めた。この学長会議は中日両国の大学間における交流の窓口として、両国の大学の共生共栄、更なる中日人民の友好に重要な役割を果たしていることなどで認識が一致した。



討論に臨まれる梶山総長(左)



会議に出席柳原副総長(左)、穴沢交際交流部長(右)

## ■九州大学大学院学位記授与式北京大学学長祝辞■

尊敬する九州大学総長梶山千里先生：

尊敬するご来賓の皆様：

ご列席の先生方、学生のみなさん：

こんにちは。

本日お招きにより、2004年度の九州大学学位記授与式に参列できましたこと、まことに喜びにたえません。同じアジアの国から参りました大学学長として、私は、いま皆様と同じく、言葉には言い尽くせない喜びと感激で胸がいっぱいでありました。と申しますのも、アジアの未来の希望が託されている若い世代が、本日人生の最も重要な1歩を踏み出すのを目にしているからであります。



ここに、まず本日の学位記授与式に列席しておりますわたしの同僚に代わりまして、また北京大学および北京大学の全ての教師学生に代わりまして、卒業生のみなさまに最も熱烈なお祝いを申し上げます。みなさんは数年間の努力の結果、順調に学業を終えられ、母校に対し、ご両親や肉親の方々に対し、またご自分自身に対し、すばらしい答案を提出なさったのです。おめでとうございます。これは皆さんの人生における一つの節目であり、新しい出発点であります。みなさんはここから出発し、必ずや、より大きな成功を勝ち取られることであらうでしょう。

私は同時にまた、九州大学にもお祝いを申し上げたい。九州大学が人材育成の面で輝かしい成果をあげられたことにお祝いを申し上げたいと思うのです。またご指導の先生方に心から敬意を表わしたいと思っております。皆様方が心をこめて育てられたからこそ、本日、花々が美しい薫りを放つことができたのです。そこで、わたしは思うのであります。本日はただ単に卒業生の祝日だけではない、先生方の祝日でもあるべきであると。あらゆる卒業生は、今後永く母校と先生方のご恩を心に刻むことでしょう。

学生諸君！

九州大学の永い偉大な伝統はみなさんの中で受け継がれ、さらに発揚されるのです。本日のこの式典は、九州大学がみなさんのここ数年間に勝ち取った成果を厳粛に認めたことを示すものであります。

学生諸君！

みなさんは新旧ふたつの世紀が交代する歴史の巨大な流れの中で生まれ、成長しました。そして21世紀の始めに学園を巣立ち、社会に出て行くのです。現代社会の進歩は日新月异であります。情報科学技術がさまざまな学問にはば広く応用されています。それは人類の社会と生活のさまざまな方面をも変えています。生命科学と技術によってわれわれは生命の本質についてよりふかく理解するようになっていきます。それは極めて大きく医学や農業の姿を変え、極めて大きく人類自身に影響を与えています。

あらたな材料が続々と生み出され、ナノ・テクノロジーとその技術、環境科学とその技術はいずれも人類の社会的経済的発展に深い影響を与えています。科学技術はすでに現代の生産力の中で最も活発な要素になっています。

## ■九州大学大学院学位記授与式北京大学学長祝辞■

しかし現代人類は、また、多くの問題に直面もしています。例えば、エネルギー、人口、病気、食料、環境などなどがそれです。経済のグローバリゼーションの進展は絶え間なくその歩みを速め、国際間の交流は日ごとに盛んになっています。異文化との交流はわれわれの視野を広げ、われわれの考え方を豊かにし、われわれの判断能力と決定能力を高めてくれます。しかしグローバリゼーションと国際化は決して地域化と民族化がその重要性を失ったということを意味するものではありません。逆に、開放と融合、同時に自己の文化的伝統と歴史的基盤を保持してこそ、全人類の文化の繁栄、世界の平和と発展ははじめて実現できるのです。ですから皆さんが直面しているのは挑戦とチャンスに満ち満ちた世紀であり、みなさんはこれまでよりも一層大きな社会的責任を担っているのです。

本日卒業式に出席いたしまして、私の大学時代を思い出しております。私は1959年北京大学の生物学科に入学いたしました。6年間学部生として学び、64年卒業、その後中国科学院の大学院に入学いたしました。そのころの中国は物質的には大変貧しいものでしたが、充実した学習と生活のおかげで学生時代はわたしに生涯にわたる貴重な記憶を残してくれたのであります。この北京大学での学習の経歴によって、私は科学に従事し国家に報いるという人生の目標を確立いたしましたし、さらにその後の私の学術研究のためにしっかりした基礎を打ち建て、勤勉と厳密という私の研究に臨む態度を身につけたのであります。

母校が私に残してくれた知識と精神的な財産はまことに大きなものであります。卒業という、この特別な時にあたり、みなさんの学術上の先輩として、皆さんがこの得がたい歴史のチャンスを大切にされ、前途有為の身で、大きな志をいただき、自分の学んだものを運用して社会に貢献し、より広々とした空間で理想を追求し、志をのぼし、自らの人生の価値を実現し、輝かしい未来を築き上げられるよう希望します。

全世界の多くの学者と政治家が、21世紀はアジアの世紀だと見ております。グローバリゼーションという大きな背景の下で、アジアの地域協力の動きがいま積極的に前進しつつあります。そうして、中国と日本はこれに対し、ともに非常に重大な使命を担っております。われわれ両国は交流と協力を不断に強め、若い世代によりいっそう相互理解の機会をもたせ、手をたずさえて、共同してアジアの平和と繁栄のために貢献すべきであります。

中国と日本は二千年にわたる友好往来の歴史をもつ隣国であります。われわれ両国は地理的に近く、文化的にはさらに深い淵源を共有しております。中日関係の歴史にも、かつてまことに痛ましい教訓がありました。私はすでに何度も貴国を訪問しておりますし、少なからぬ日本の友人と親交がございます。私はずっと固く信じて参りました。われわれ両国は政治、経済の体制は異なるけれども、それは両国人民が友好的につきあい、アジアの共通の発展と繁栄を求めるうえで何の障害にもならない、と。

## ■九州大学大学院学位記授与式北京大学学長祝辞■

大学も科学技術の協力と学術の交流を推し進めています。そして、異なる国家が理解、協力を増進する面で独自の役割を果たしております。これはかつて私の前任者と東京大学学長が、中日大学学長会議を開こうとよびかけられたときの初志でもありました。それによって両国の学者の交流と協力を促進し、共同して人類が直面している挑戦に対応しようと呼んでいるわけであり、このような会議をこれまですでに中国と日本で3回開催してまいりました。

今日まで北京大学はすでに日本の24の大学と大学間交流を締結し、強力に学術交流を締結し、研究協力および学生の交換を行なってまいりました。1985年九州大学との間で大学間交流を結びました。それ以来この両大学の間では素晴らしい協力関係が打ち建てられておりますことを私は大変嬉しく思っております。同時に両校が中日間で長い友好協力関係の樹立を促進するために貢献できることを願っております。

より一層友好的な中日関係を作り出すことは、私たち中日両国の青年世代の共同の責務であります。アジアの平和と繁栄を共同して保証すること、これも道義上さけることのできない責務であります。どうかみなさん、すべての智慧と勇気を出し尽くして、この偉大な使命を完成されますよう希望いたします。

私は、九州大学が社会の崇敬を勝ち得ている理由は、九州大学が長期にわたって皆さんの国家、ひいては人類社会全体に比べるもののない大きな貢献をなしてきたからだと思えます。世の人々から見れば、皆さんは九州大学のイメージを代表しているのです。どうかみなさん、自分の名誉を大切にしていきたい、また母校の名誉を大切にしていきたい。皆さん方の卓越した成果と高い道徳性、高尚な品性で、母校にみなさんを誇りある存在とみなさせていきたい。そうすれば、皆さんも将来あらゆる教育者の誇り、それだけではなく全人類の誇りとなるでしょう。

最後に、もう一度みなさんの前途が光明に満ちた洋々たるものであるようお祈り致します。また九州大学の事業が発展しつづけるよう、お祈りいたします。北京大学と九州大学の協力が不断に発展し、両校の教師と学生の友誼がとこしえでありますよう祈念いたします。

有難うございました。

平成17年3月25日

北京大学学長 許智宏 (Xu Zhihong)

翻訳：言語文化研究院 岩佐昌暲教授

(岩佐教授は、平成16年4月1日付けで熊本学園大学へ移られました。)

## ■北京事務所開所式九州大学中国同窓会徐宗学副会長挨拶■

柳原副学長、穴沢部長、宋敏所長、ご臨席の皆様：

こんばんは！

先ほどご紹介いただいた北京師範大学の徐宗学です。

暖かい春のひざしがそっと街角を包み花々が芳しくなるこの良き時節に皆様とともに九州大学北京事務所の開所式を迎えられること、誠に嬉しく存じます。私はこの場を借りて、九州大学中国同窓会会員の皆様を代表致し、九州大学北京事務所の開所に当たりお祝いの意を表したいと思えます。また、日本からいらっしやった柳原副学長、穴沢部長と皆様に、心から歓迎致します。

中日両国は地理的に近隣であるばかりでなく、政治・経済・文化の面においても古くから極めて密接な関係をもっています。鑑真から徐福、郭沫若先生から魯迅先生、そしてお座りになったおられる皆様、一人一人が中日両国の文化交流及び人民の多世代にわたる友好を目指して、力を尽くしております。今日本のお店に並べられている中国製の洋服や日用品や野菜や果物など、そして中国の町で走っている日本製の自動車及び私達の宅にあるテレビ、クーラー、カメラなど、これらは全て中日両国間貿易交流のおかげです。文化交流から貿易交流、当局役員の相互訪問から民間の自由観光、中日両国は政府だけでなく、民間の交流も破竹の勢いであります。先ほどご紹介いただいたように、今現在九州大学で学んでいる中国人留学生は486名います。私が勤めております北京師範大学にも500名ぐらいの日本人留学生が勉強しています。日本と中国は資源・技術・文化など広い面にわたって、交流する必要があります。長期間にわたる相互友好交流、発展のために、この度、北京市内に「九州大学北京事務所」が開設されるのは両国国民ともに望んでいたことと存じます。

もちろん、「万事始まり難し」という諺のとおり、開所の初段階にはいろいろな困難があるに間違いありませんが、九州大学及び九州大学中国同窓会一同はいつでも力を合わせて頑張ってください。

「朋遠方より来たる有り、また楽しからずや」、ここでもう一度柳原副学長、穴沢部長をはじめとする日本からの皆様に歓迎の意を述べさせて下さい。また、これから九州大学からもっと大勢の方々が北京に来られることを楽しんで待っています。本日はこのように晴れがましく、記念すべき場にお招きいただき、本当に有難うございます。

以上をもって皆様のご健勝と九州大学北京事務所の発展を祈願しつつ、日中両国の繁栄と両国間の友好交流を願ってご挨拶の言葉とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

